

心配するより、信じて。そして自信に。

朝晩の寒さと校庭の木々の色づきから、秋の深まりが感じられます。緑一面の中庭の芝生の絨毯も日ごとに冬に向かっていくことがわかります。先日、1・2年生が植えたサツマイモを掘り畑に行きました。とっても大きなお芋がたくさん。豊かな実りの秋も学校に届きました。

11月には毎年PTA主催の「広野っ子ウォークラリー」が今年も25日(水)に予定されています。コロナ禍の中での実施となり、PTA役員の方々には思索していただき、今年度については、地域の方や保護者の皆様には参加いただけませんが、子どもたちに思い出に残る一日となるよう、準備を進めていただいております。

本年度は、広野小学校 創立40周年を迎え、当日は『創立40周年記念 広野っ子ウォークラリー』として、子どもたちと共に祝いしたいと考えています。また、40周年記念事業として児童用昇降口の整備工事が始まります。子どもたちにとって気持ちよく使いやすい環境を整えてくださることに大変感謝しております。ありがとうございます。

さて、新型コロナウイルスの影響で、社会も大きく変わりつつあります。子どもたちにとっても、オンライン授業など学習スタイルも変化し、将来社会に出るまでに習得すべき能力も、親世代とはかけ離れたものになると考えられます。そんな変化の激しい時代に、今「親は子どもに何をしてあげられるでしょう？」今春から実施されている新学習指導要領でも、主体的に学習に取り組む態度の育成が求められています。よりよく意欲をもって学びに向かえるように私たち大人は何ができるのでしょうか。

子どもは生まれたときから親の「信頼」を確認します。しかしながら、私たち親は、自分の子どもを「信頼」しているのでしょうか？「信用」と答える人は多いでしょう。でも「信用」とは、条件つきで信じることであり、「テストで百点とってえらいね」「お手伝いしてくれていい子ね」具体的な成果をほめることもよいことですが、このような言葉には、条件があるので「信用」となり、「あなたがいい子であるためには、何かの条件をクリアしないとイケないよ」と伝えていることとなります。これではどうでしょう。子どもにとって良くないですね。そこから生まれる自信は根拠に基づいたものです。子どもは、「もし条件がクリアできなかつたら、いい子じゃなくなる…」と不安になり、さまざまなチャレンジを避けるようになってしまうでしょう。その根拠のある自信は、根拠となる事実が消えるとなくなってしまいます。一方、根拠のない自信は、そうした条件付きの自信ではなく、親からありのままを受け入れられ、愛されているという実感から生まれるものです。子どもを無条件で信じる「信頼」こそが大切です。まさに、『愛』ですね。親は、いろんな場面や状況、出来事があり、心配が生じます。相手に対して感情があればあるほど心配も大きくなるかもしれません。感情が入ると入るほど、心配が先に立つかもしれません。でも心配が訪れた時は、どうか信じる心と呼び起こしましょう。私たち大人がそうなれば、子どもは安心して前に進むことができるでしょう。

まず、親が子どもを信じる。すると子どもは親を信じ、自分を信じることができる!!

学年も後半になりました。6日(金)のオープンスクールは、今年度初めてとなります。ぜひ、子どもたちの学習の様子を参観していただきたいと思います。子どもたちのそれぞれの成長を認め、『信頼』する機会となれば幸いです。秋の深まりが、子どもたちの前に進む力と重なり、学びの深まりとなることを願っています。

